

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

動物飼育科は実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、企業との連携、実習、就職フェア等を通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む)に活かすことを目的とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

高等学校教育の基礎の上に深く専門的な能力を施すにふさわしい授業を可能にするため、就職先であるペットショップ、動物病院などと連携し、その要請を十分に活かしつつ、教育課程の編成に反映させることにより、職業教育の質を高める。外部の関連施設の意見を教育課程編成に反映させる機能として、「教育課程編成委員会」を設置する。教育課程編成にあたっては、授業内容、授業方法およびその手法、法定の範囲内での授業科目の新たな開設など「教育課程編成委員会」の意見を反映させるものと位置づけ、教務課が案を編成し、教育会議において審議、校長に上申後決定実施する。ま

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和〇年〇月〇日現在

名前	所属	任期	種別
加藤 元	一般社団法人 J-HANBS 会長	令和元年4月1日～令和2年3	①
花上 信治	東京都ケネル事業協同組合	令和元年4月1日～令和2年3	③
水野 隆弘	野動物病院 院長	令和元年4月1日～令和2年3	③
太田 正孝	氷取沢ファミリー牧場オーナー	令和元年4月1日～令和2年3	③
北村 昭二	群馬サファリパーク 動物部長	令和元年4月1日～令和2年3	③
榊原 茂	オフィス榊原	令和元年4月1日～令和2年3	③
井坂 啓己	一般社団法人 ビーチクラブ	令和元年4月1日～令和2年3	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 平成30年9月21日 14:00～15:30

第2回 平成31年3月20日 14:30～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

平成30年度9/21日

【教育課程編成の決定】

平成30年度前期の実習において、委員会で以下の決定があがった。よってこれらを今年度、次年度の教育課程の改善・工夫に活用することを決定した。

【意見】「動物園や観牧場等に就職する上で学生に促している資格を教えてください」

【回答】動物園や観光牧場等では、自動車免許(特にマニュアル)が必須であり本校では1年生から取得するよう指導している。

【意見】「動物飼育室の管理、飼育状況を確認したい」

【回答】本科では学生を中心に上級生が下級生とグループを組み、室内の管理及び動物の飼育をしている。飼育については飼育記録簿に記入を行い、教員からの指導を受けている。

その他の意見として、「身だしなみに対する意識が低い」「言葉遣いが悪い」ことが問題となったので、全学科対象に臨時ガイダンスを行うこととした。

○平成31年3月30日

【教育課程編成の決定】

学校と業界企業の事業において、委員会で以下の意見があがった。

よって、これらを今年度、次年度の教育課程の改善・工夫に活用することを組織として決定した。

①学生から実習についてボリュームを求める意見をよく聞くと、企業はクオリティーを求めているところが多い。

②コストに対する意識・ビジネス感覚を身につけておいた方がよい。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

職業教育の質を確保するため、特に実習・演習等の授業における学習や技術指導、学習効果の評価において企業と連携

し、職業に必要な実践的かつ専門能力を養うものとする。具体的には以下の能力をいう。

①鳥類保護施設における接客業務

顧客に対する接客業務を通して、コミュニケーションをとる能力を養う。

施設等に説明ができるプレゼンテーション能力を養う。

②鳥類保護施設におけるスタッフの助手

鳥類保護の実践により動物保護の知識と技能を習得する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

2年次に実施する「専攻演習科目Ⅱ」の授業内の実習前に校内の担当教員と企業の実習講師が打ち合わせおこない、実習内容や学習成果の評価方法・評価指標について定める。実習期間中は、学生の実習実施状況や能力習得状況を定期的に把握できるよう相互に情報交換を行う。実習終了時には、実習の講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価・単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
専攻演習科目Ⅰ	各企業先を訪問し、実際の業務に則した作業を行う、飼い鳥の適正飼育に関する現場での授業。	NPO法人TSUBASA
専攻演習科目Ⅰ	展示方法や飼育方法など、動物施設における仕事の実践を学ぶ。	板橋区エコポリスセンター
専攻演習科目Ⅰ	飼育環境を学ぶ校外研修	キャラバン
専攻演習科目Ⅱ	ビオトープ、自然保護管理方法を学ぶ野外実習	板橋区エコポリスセンター
専攻演習科目Ⅱ	野鳥観察を通して自然環境を理解するフィールド実習	NPO法人TSUBASA

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

研修は、教職員に対して、学生達が将来就くことが予想される職に係る業務の遂行に必要な知識または技能を習得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質を向上させ、本校の理念・目的・目標を達成することを目的とする。

当校の理念実現のため個人の能力を高めることは必須であり、そのために、組織的に研修を計画し、研修計画の必要性を説明し、教員一人ひとりの発意を促し主体的に参加させている。そのために、教職員の専攻分野・担当業務及び本校関連分野に係る団体・企業の意見を聞き、教職員の経験・能力等を勘案し研修計画を作成し実施する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

① 専攻分野における実務に関する知識技術 「とり研修」平成31年6月17、18、19日 動物飼育科教員対象、NPO法人TSUBASA 鳥類保護施設にて3日間の実習を実施した。内容は、専門教育科目の応用分野を担当する施設長が、当該分野の基礎分野の担当教員に対して専門的な知識(特に大型鳥類)や技能を講義し、担当教員の知識定着と発展を図り、「鳥類保護施設の業務」、「鳥類保護施設の運営」等のテーマで各応用分野へのスムーズな知識発展に学生を指導できるよう取り組んだ。

② 指導力の修得・向上のための研修等

② 指導力の修得・向上のための研修 「指導力アップ研修」平成31年3月4日内容は施設長による、「大型鳥類の飼育・調教方法」「スタッフの育成」の講義を受け、「学習指導」力、「生徒指導」力と結び付く「授業力」等の向上を図った。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

「とり研修」令和元年11月3日(日)から1～2日予定 動物飼育科教員対象 NPO法人TSUBASA 平成30年度と同様実習を計画している。

② 指導力の修得・向上のための研修等

「リーダーシップ研修」令和2年2月21日(金)予定 動物飼育科教員対象 NPO法人TSUBASA 平成30年度と同様実習を計画している。マネジメント力・コミュニケーションスキル等も強化することが目標。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者として、旅行・スポーツ・広告・介護・ダイビング・ペット等、関連団体の代表者と共に、学校関係者評価委員を設置して、各業界における実務に関する知見を活かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動及び学校運営の改善の参考とする。(教育理念・目標、学校運営、教育活動、学修成果、教育環境等)

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	・理念・目的・人材育成像は定められているか (専攻分野の特性は明確になっているか)
(2) 学校運営	・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・事業計画に沿った運営方針が策定されているか
(3) 教育活動	・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・教育理念、人材育成像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての
(4) 学修成果	・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか
(5) 学生支援	・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか
(6) 教育環境	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	・学生募集活動は、適性に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
(8) 財務	・中長期的学校の財政基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
(9) 法令等の遵守	・法令、専修学校設置基準の遵守と適性な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
(10) 社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか
(11) 国際交流	・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校と保護者が協力して本校の教育をより良くする学校関係者評価を意識するために地域連携の幅を広げている。活動動物あれあい活動、その一環としての動物ふれあい活動と夏祭り、地域防犯キャンペーンなどのボランティア活動を展開。評価結果を意識した活動が実を結び始めている。また、更に開かれた学校を目指し引き続き第三者評価を受けることを検討している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年10月16日現在

名前	所属	任期	種別
立花 俊一	ユニバーサルツーリスト株式会社 代表取締役	令和元年4月1日～令和2年3	PTA
秋山 哲朗	株式会社アビススポーツ 代表取締役	令和元年4月1日～令和2年3	企業等委
加藤 裕康	アカマイエラーニング シニアアドバイザー	令和元年4月1日～令和2年3	企業等委
黒田 誠	フィードオン 代表	令和元年4月1日～令和2年3	企業等委
高阪 史生	ウェルソル株式会社 代表取締役	令和元年4月1日～令和2年3	企業等委
江崎 泰元	葵コーポレーション株式会社 代表取締役	令和元年4月1日～令和2年3	企業等委
三畑 武一	NPO法人ミハタ 総合地域スポーツクラブ 相	令和元年4月1日～令和2年3	団体役員
齋藤 忍	獅子浜ダイビングサービス 代表	令和元年4月1日～令和2年3	企業等委
さとう 俊	マメチ・プロダクション 代表	令和元年4月1日～令和2年3	企業等委

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <http://www.petandanimalanimal.jp/> 公表時期: 令和元年10月末日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

平成19年度より学校教育法第133条、第134条第2項において準用する第42条及び同法施行規則第189条、第190条に

において準用する66条、68条により、学校自己評価の実施・公表は実施することが義務づけられた。これにともない学校では、平成24年度より学校自己評価委員会を立ち上げた。また、平成25年度より学校関係者に関するシステムの構築と普及活動を続けている。私立専門学校等評価研究機構の第三者評価事業が作成した自己点検ブック（私立専門学校等の自己点検・自己評価専門学校等評価基準Ver. 2.0）に基づいた自己点検を行なうことで、教育水準の向上に更に努めているよう工夫している。当校は、「学校自己評価委員会」を設置し、教職員が連携して評価活動を行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	建学の精神 ミッション ビジョン 事業計画 組織図 沿革
(2)各学科等の教育	学科・専攻の案内
(3)教職員	教職員データ(年齢別、職階別) 教職員一人当たり学生数、専任教員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	職業実践に関する授業科目
(6)学生の生活支援	学生会館のご案内、下宿に関する相談支援
(7)学生納付金・修学支援	奨学金について、特待生制度
(8)学校の財務	財産目録、貸借対照表、資金収支計算書、消費収支計算書<計画書類
(9)学校評価	情報公開
(10)国際連携の状況	モアパーク・カレッジ(カリフォルニア)にて肉食動物の飼育実習及び口
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法
(情報提供の方法)

URL:<http://www.petandanimal.jp>